

# かながわ畜産まめ知識

## 鶏の品種

### 鶏の祖先



赤色野鶏

鶏の祖先は、アジアから東南アジアにかけて生息している野生の鶏の一種の「赤色野鶏」であるといわれています。この赤色野鶏がインド、ミャンマー、マレーシア、タイにかけた地方で家畜化されたと考えられています。鶏がわが国に渡来した年代は明らかではなく、古く中国大陸から朝鮮半島を経て渡来したものが主流で、その後、平安時代から江戸時代の初期にかけて中国大陸や東南アジアから新しい品種がはいったと伝えられています。赤色野鶏は、体重が500～600gと小さく、産卵数も年50個程度と少なく、また鶏に比べてかなり飛翔力があります。現在の鶏は、肉用鶏では体重が60日程度で3kgにもなり、卵用鶏では年300個以上産卵する能力がありますので、現在までに発育性、産卵性について、人間がいかに品種改良を重ねてきたかがわかると思います。

### 主な鶏の品種

鶏は用途別に卵用種、卵肉兼用種、肉用種および愛玩用種に分類できます。

**【卵用種】** 比較的小型の体格をもち産卵能力に優れた鶏です。卵用種を代表する品種として



は、白色レグホーン種があげられます。白色の卵を生産する卵用鶏は、この品種またはその交雑種が大部分を占めています。

**白色レグホーン種**：羽色は白色、とさかは単冠で大きい。皮膚と足の色は黄、卵殻は白。就巢性（卵をあたためる性質）はほとんどなく、世界的に最も普及している代表的卵用鶏です。（左写真）

**【卵肉兼用種】** 産卵能力は卵用種と遜色なく、また、大型で肉質のよい品種です。



**ロードアイランドレッド種**：羽色は濃褐色、単冠、皮膚と足は黄色、卵殻は赤褐色。白色レグホーンの雄と交配した1代雑種は、ロードホンと呼ばれ、産卵能力が高い。また、シャモや比内鶏と交配して、高級鶏肉生産にも利用されています。（左写真）

**横斑プリマスロック種**：羽色は黒色と白色の横斑で、皮膚と足の色は黄、卵殻は白。白色レグホーンと比べるとずんぐりした体型です。

**名古屋種**：羽色は黄褐色、単冠、足は鉛色、卵殻は褐色。就巢性があるものが多く、愛知県で明治の初め、従来種とバブコーチンの交雑種を元に作出されました。

**【肉用種】** 肉用種は、大型で成長速度の速い品種です。白色コーニッシュ種の雄に比較的産卵性のある白色プリマスロック種等の雌を交配した交雑種のひながブロイラー専用種といわれます。

**白色コーニッシュ種**：羽色は白色で、肉付きがよく、特に10週齢までの発育が早い。

**【愛玩用種】** チャボ、長尾鶏など愛玩を目的に飼養されている鶏種で、日本では17種類が天然記念物として指定されています。

参考

「家畜飼育の基礎」／(社)農山漁村文化協会  
「ニワトリの動物学」／東京大学出版会  
「新編養鶏ハンドブック」／(株)養賢堂